

高齢者総合計画実態調査の結果と 支援のポイント（案）について

1. 高齢者総合計画実態調査の概要	2
2. 高齢化の進展と支援の必要な高齢者の増加について	4
3. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響	8
4. 高齢者の生活状況について	12
5. 在宅要介護認定者の状況について	19
6. 在宅介護の支援について	22
7. 在宅における要介護度の維持・改善に向けて	27
8. 介護人材の確保について	33

1. 高齢者総合計画実態調査の概要

(1) 調査の目的

「瀬戸市高齢者総合計画」の見直しにあたり、高齢者等の日常生活実態及び介護者の介護実態を把握し、瀬戸市（以降、「本市」という。）における課題整理を行い、今後目指すべき地域包括ケアシステム構築のあり方とサービス基盤の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的として、本調査を実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

全体で6種の調査を実施しました。調査別の実施概要は以下のとおりです。

	調査種別	調査内容・対象	調査方法	調査期間
1	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	高齢者の要介護リスクや生活の状況、支援ニーズ等について、瀬戸市に居住する要介護1～5の認定を受けていない65歳以上の人の中から無作為に抽出した2,500名を対象に実施。	郵送配付・郵送回収	令和4年 12月13日～ 12月27日
2	在宅介護実態調査	要介護者の在宅生活の継続に向け、有効な介護サービスや支援、家族介護者の支援ニーズ等について、瀬戸市に居住する65歳以上で要介護認定を受けている高齢者及びその主な介護者である家族・親族を対象に実施。	認定調査員による聞き取り調査	令和4年 10月17日～ 令和5年 1月31日
3	第8期経過介護実態調査	要介護状態の変化とそれに関わる生活・介護の状況等について、前回の第8期計画策定にあたり実施した在宅介護実態調査（令和元年度）の対象となった高齢者213人とその主な介護者である家族・親族を対象に実施。	郵送配付・郵送回収	令和4年 12月13日～ 12月27日
4	介護人材実態調査	介護人材の確保に関する実態について、瀬戸市内に事業所のある①訪問系サービス事業所全数（61事業所）【訪問系事業所票】、②施設・通所系サービス事業所全数（122事業所）【施設・通所系事業所票】、③訪問系サービス事業所の介護職員【職員票】を対象に実施。	郵送配付・郵送及びウェブ回収	①②令和4年 12月22日～ 令和5年 1月24日 ③令和5年 1月6日～ 1月27日
5	介護休業制度等実態調査	介護休業制度の利用状況等の現状について、瀬戸商工会議所に入会している会員企業2,074事業所を対象に実施。	郵送配付・郵送・FAX・ウェブによる回収	令和5年 1月6日～ 1月27日
6	居所変更実態調査	入所施設における入居・退去の実態について、瀬戸市内に事業所のある施設系サービス事業所を対象に実施。	郵送配付・郵送及びウェブ回収	令和4年 12月22日～ 令和5年 1月24日

(3) 回収数・回収率

アンケートの回収結果は以下のとおりです。

	調査種別	配付数	有効回収数	有効回収率
1	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,500	1,950	78.0%
2	在宅介護実態調査	-	374	-
3	第8期経過介護実態調査	213	159	74.6%
4	介護人材実態調査			
	訪問系事業所票	61	18	29.5%
	施設・通所系事業所票	122	66	54.1%
	職員票	-	301	-
5	介護休業制度等実態調査	2,074	442	21.3%
6	居所変更実態調査	64	25	39.1%

(4) 報告書の見方

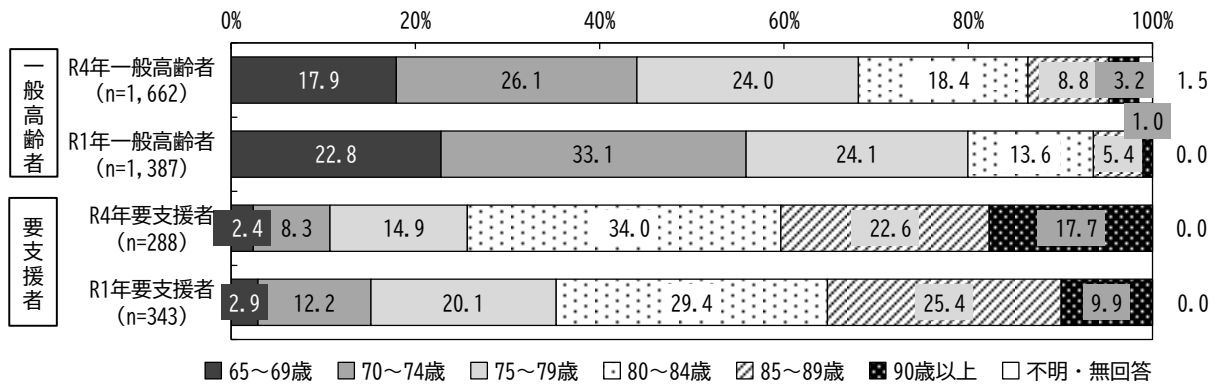
- 本調査結果については、前回調査で同様の設問があるものについては、基本的に前回調査結果と今回の調査結果を併記して示しています。R4年と表記しているのが今回の調査結果、R1年と表記しているのが前回の調査結果です。
- 回答結果の割合「%」は集計対象者総数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、選択肢からいずれか1つの選択肢を選ぶ設問であっても合計値が100.0%ちょうどにならない場合があります。
- 複数回答（特に表記のない場合は、当てはまる選択肢をすべて選択する形式）の設問の場合、各選択肢の回答割合の合計が100.0%を超える場合があります。この形式の設問については、質問文の末尾に「複数回答」と表記しています。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（回答者を限定する設問の限定条件に該当する人の総数）を表しています。

2. 高齢化の進展と支援の必要な高齢者の増加について

(1) 主な調査結果

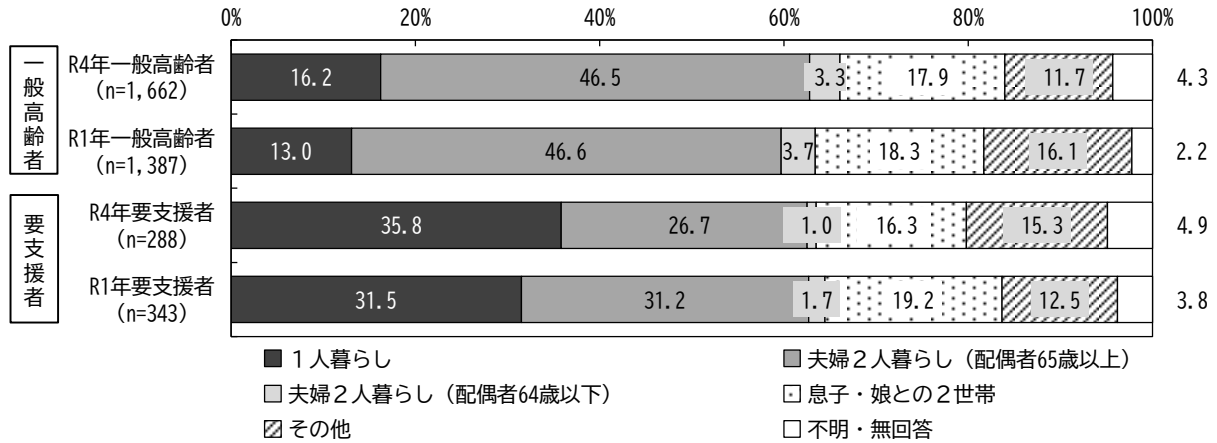
一般高齢者を対象とした調査では、瀬戸市の高齢者人口の年齢構成を反映して、前回調査より一般高齢者の年齢構成が高齢化しています。

■年齢（令和4年12月1日現在）をお答えください。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問4】



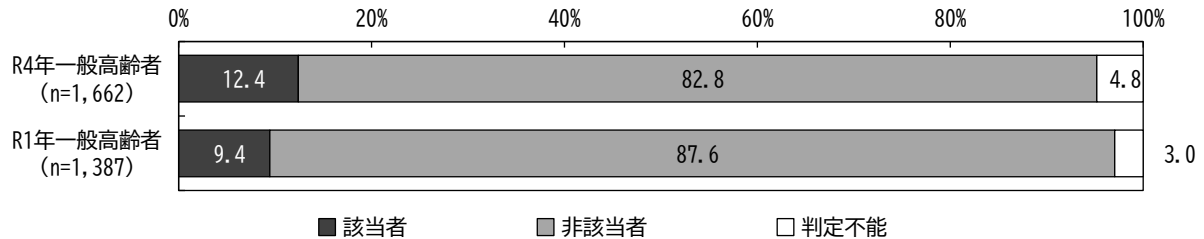
家族構成についても、一般高齢者、要支援者ともに「1人暮らし」がやや増加しています。

■家族構成をお教えてください。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問6】

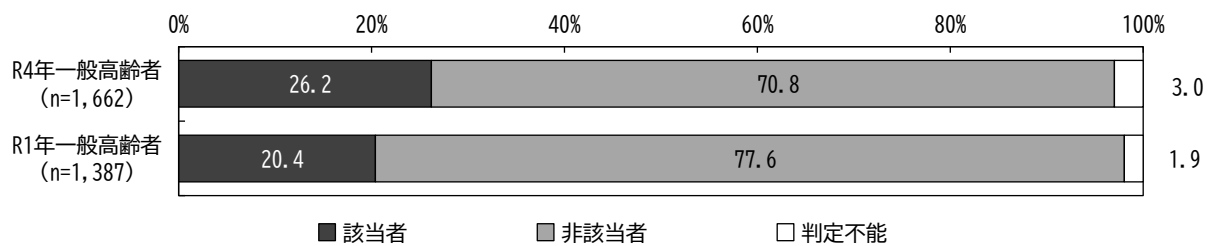


要介護リスクの状況について、運動器の機能低下、口腔機能の低下、低栄養リスク、閉じこもりリスク、物忘れリスクのいずれも、前回調査より該当者が増加しており、身体機能や生活状況に課題のある高齢者が増加しています。

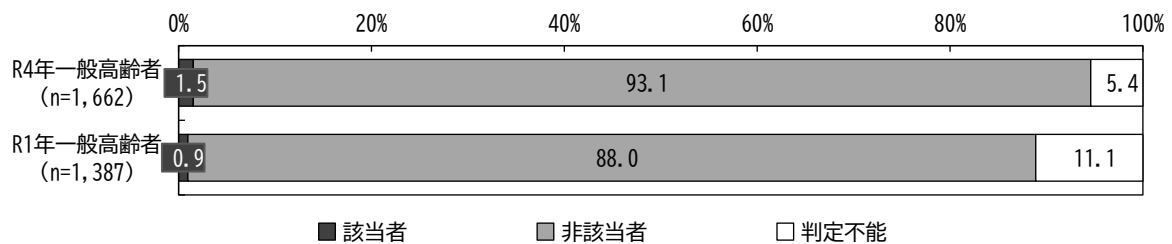
■運動器の機能低下リスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



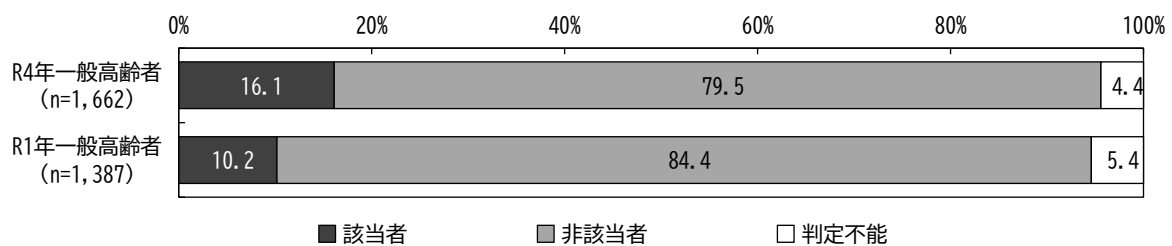
■口腔機能の低下リスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



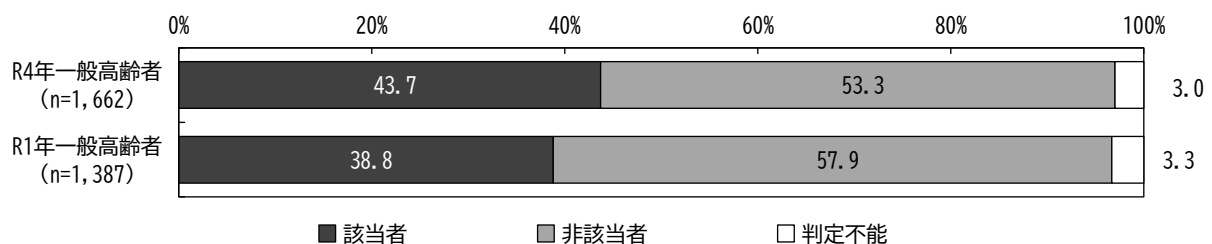
■低栄養リスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



■閉じこもり傾向【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

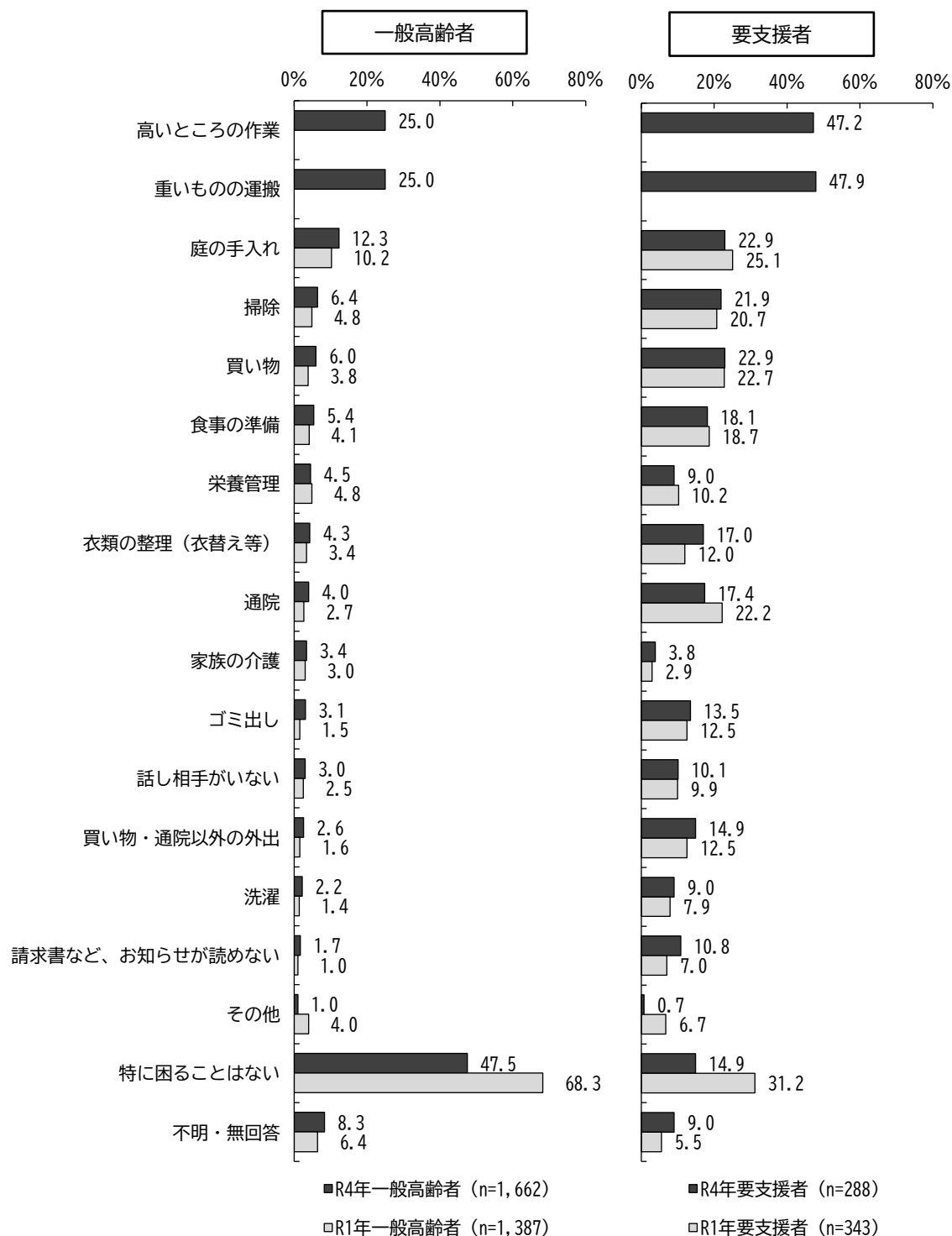


■物忘れリスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



日常生活で困っていることについて、一般高齢者で「特に困ることはない」が前回の68.3%から、今回は47.5%と大きく減少しており、「高いところの作業」「重いものの運搬」等の回答が多くなっています。

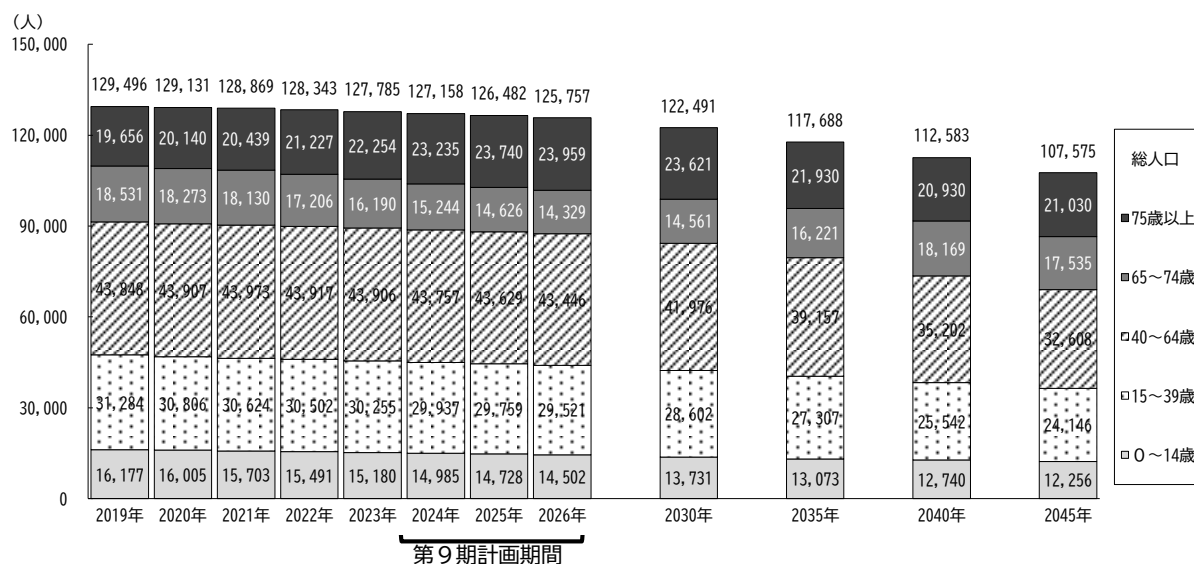
■日常生活で困っていることは何ですか。【複数回答、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 81】



※「高いところの作業」「重いものの運搬」はR4年調査のみの選択肢。

瀬戸市の人口の推移をみると、75歳以上人口の増加が続いており、将来推計においても当面はこの傾向が続く見込みとなっています。

■年齢5区分推計人口の推移



※瀬戸市男女別年齢別人口（住民基本台帳）各年10月1日時点に基づき、コーホート変化率法により推計。2023年以降が推計値。

(2) 支援のポイント（案）

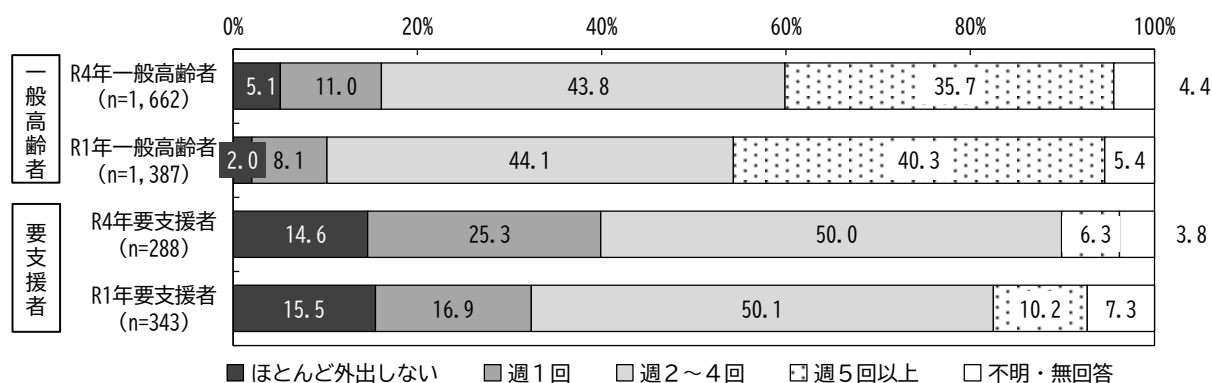
- ◆高齢者の年齢構成の高齢化に伴い、単身・高齢者のみ世帯の増加や身体機能が低下する高齢者の増加が進んでおり、認定率の上昇の前段階として要介護リスクの高い高齢者の増加がうかがえる状況です。
- ◆瀬戸市の高齢者の年齢構成をみると、第9期計画期間中には、75歳以上人口の増加と65～74歳人口の減少が見込まれています。

3. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

(1) 主な調査結果

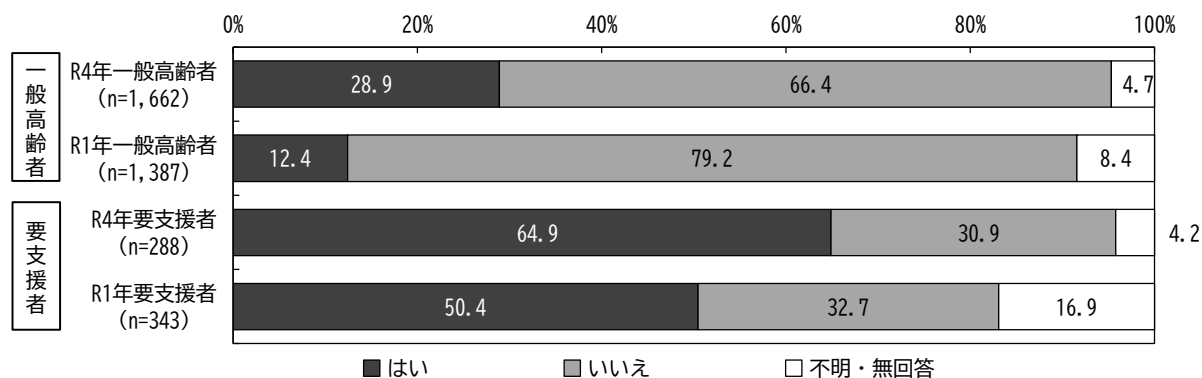
外出の頻度について、「ほとんど外出しない」または「週1回」という回答が増加し、「週5回以上」が減少しています。

■週に1回以上は外出していますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 19】



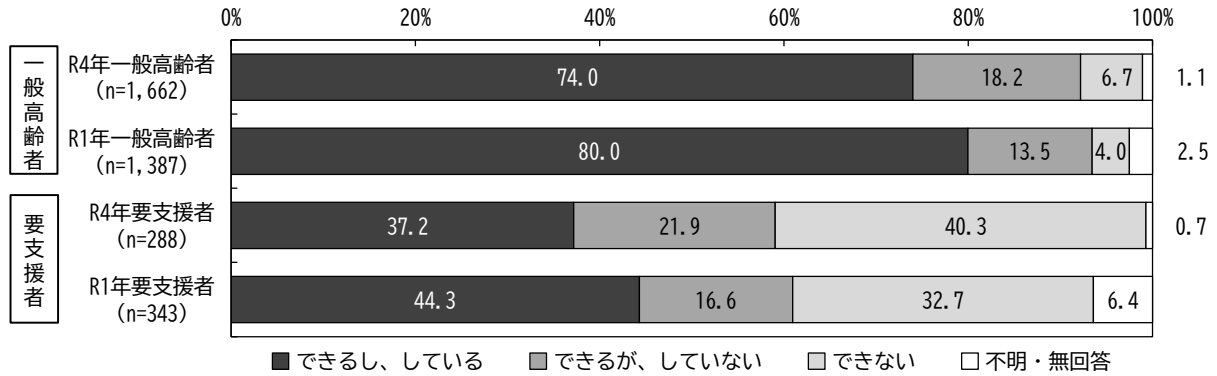
外出を控えている人は、一般高齢者で前回の 12.4%から今回は 28.9%に大幅に増加しています。

■外出を控えていますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 21】

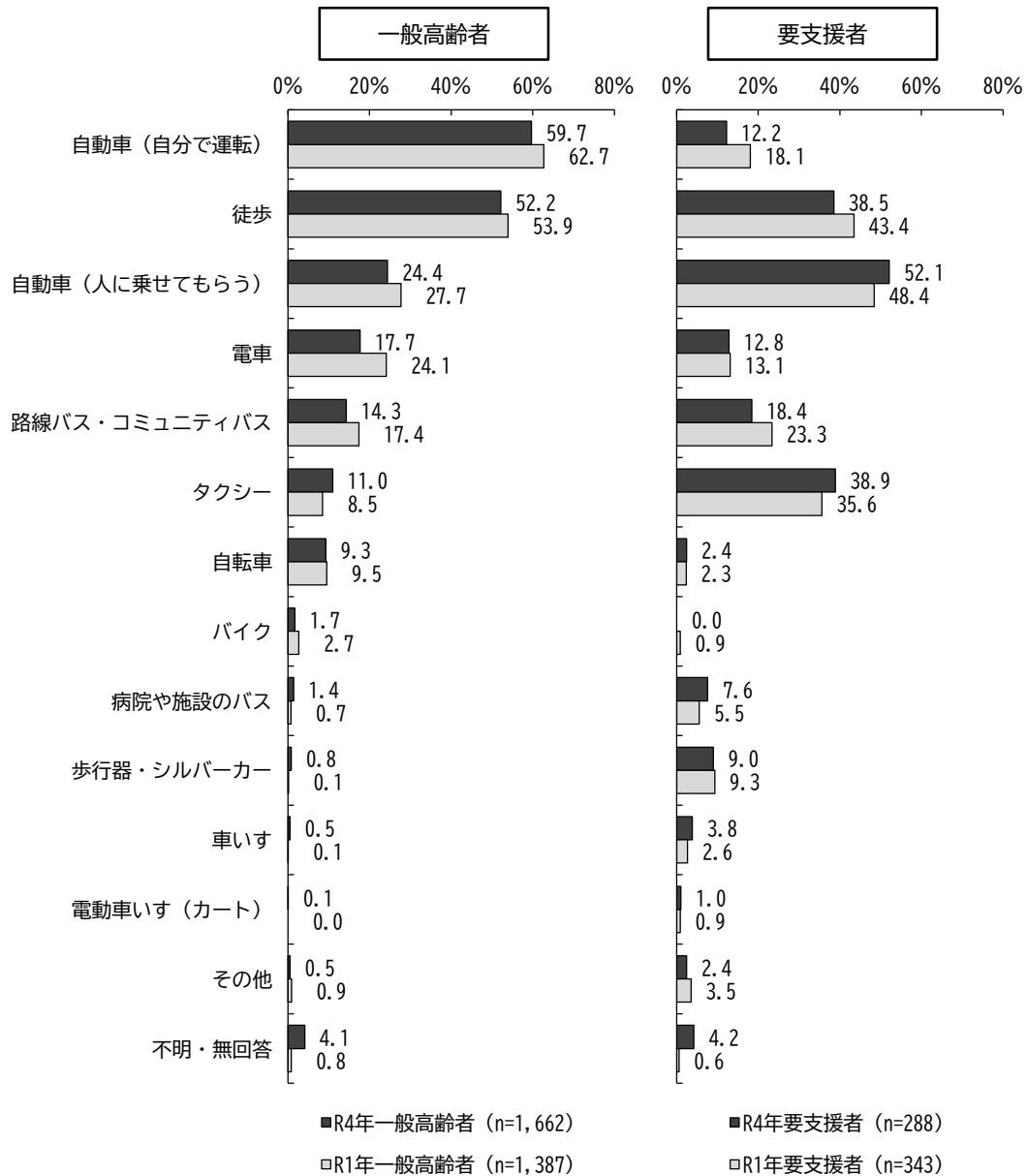


バスや電車を使って1人で外出することについて、「できるが、していない」が増加しています。外出する際の移動手段についても、電車・バス等の公共交通機関の利用が減少しています。

■バスや電車を使って1人で外出していますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 39】



■外出する際の移動手段は何ですか。【複数回答、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 18】



老人クラブや町内会・自治会といった地域組織への参加については、週1回以上の回答が減少しています。一方で「介護予防のための通いの場」については、要支援者の週1回以上の回答が前回調査より増加しています。

■以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 56】

一般高齢者

単位：%

一般高齢者		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	不明・無回答
⑤介護予防のための通いの場(運動教室・交流サロンなど)	R4年一般高齢者 (n=1,662)	1.0	2.1	2.8	1.4	1.2	84.2	7.2
	R1年一般高齢者 (n=1,387)	0.9	1.4	1.3	1.9	2.0	58.2	34.3
⑥老人クラブ	R4年一般高齢者 (n=1,662)	0.2	0.7	0.3	1.1	2.0	88.3	7.3
	R1年一般高齢者 (n=1,387)	0.6	0.7	0.1	1.1	1.9	61.4	34.2
⑦町内会・自治会	R4年一般高齢者 (n=1,662)	0.3	0.1	0.5	5.2	19.2	67.9	6.8
	R1年一般高齢者 (n=1,387)	0.4	0.3	0.6	5.7	16.7	44.0	32.4

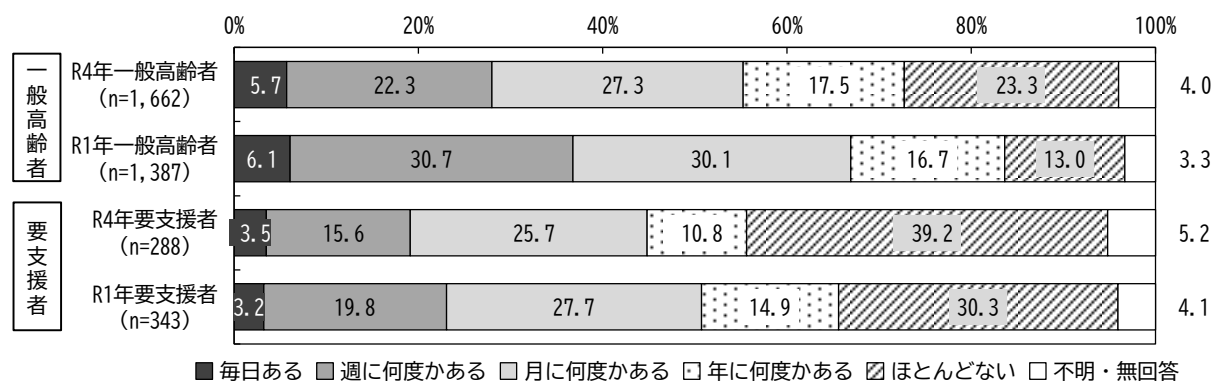
要支援者

単位：%

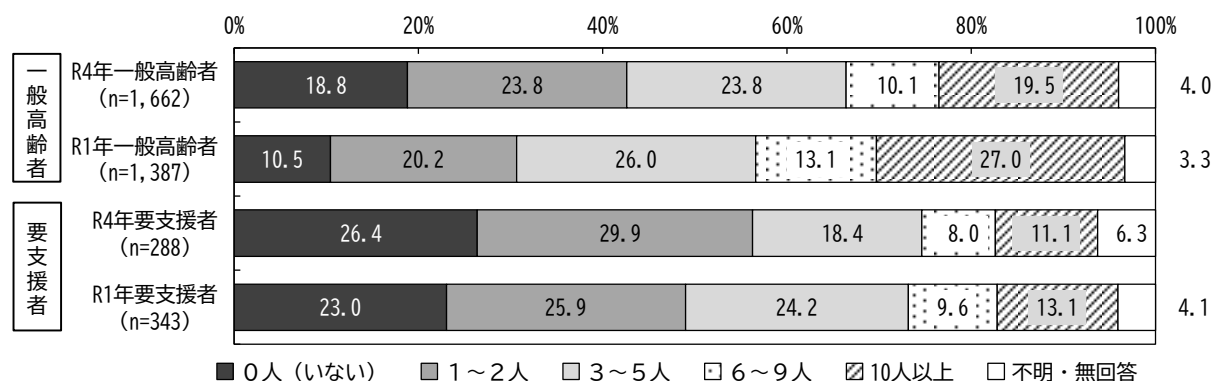
要支援者		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	不明・無回答
⑤介護予防のための通いの場(運動教室・交流サロンなど)	R4年要支援者 (n=288)	1.4	8.0	8.3	1.7	1.4	69.1	10.1
	R1年要支援者 (n=343)	0.9	3.8	3.5	1.5	1.5	49.6	39.4
⑥老人クラブ	R4年要支援者 (n=288)	0.0	0.7	0.0	2.4	2.1	84.4	10.4
	R1年要支援者 (n=343)	0.0	1.2	0.0	2.9	4.4	52.8	38.8
⑦町内会・自治会	R4年要支援者 (n=288)	0.0	0.0	0.0	0.7	7.6	81.9	9.7
	R1年要支援者 (n=343)	0.3	0.3	0.3	1.2	5.5	50.4	42.0

友人・知人と会う頻度について、「ほとんどない」が増加しています。1か月に会った友人・知人の数についても、「0人(いない)」または「1～2人」が増加し、それより多い人数の回答が減少しています。

■友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 65】



■この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 66】



(2) 支援のポイント (案)

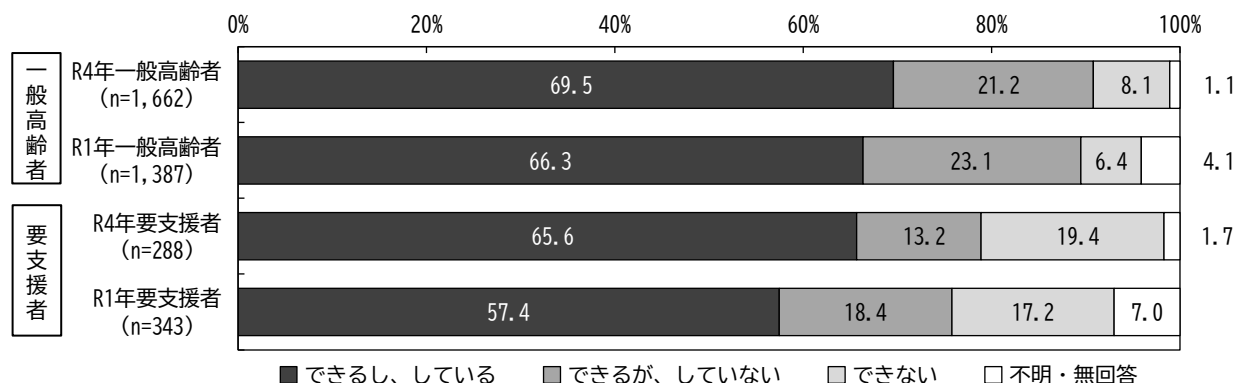
- ◆感染症拡大の影響で高齢者の閉じこもり傾向が高まっていることが示されています。また、友人・知人との関係についても、希薄化の傾向が見られます。
- ◆閉じこもりが習慣化することで、フレイルの発生や相互扶助の基盤となる人間関係の希薄化が懸念される状況となっています。
- ◆老人クラブや町内会・自治会といった地域組織への積極的な参加が減少しています。

4. 高齢者の生活状況について

(1) 主な調査結果

食事の用意や請求書の支払いといった日常生活に必要な活動について、女性と比べて男性の方に「できるが、していない」または「できない」という回答が多くなっています。

■自分で食事の用意をしていますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 41】

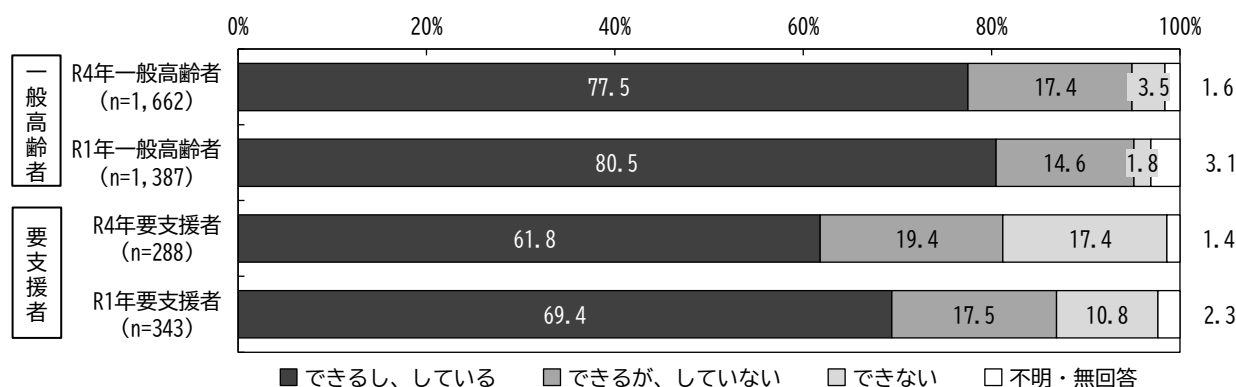


性別にみた食事の用意【一般高齢者】

単位：%

	できるし、している	できるが、していない	できない	不明・無回答
男性 (n=741)	42.8	40.4	15.7	1.2
女性 (n=894)	92.4	5.1	1.8	0.7

■自分で請求書の支払いをしていますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 42】



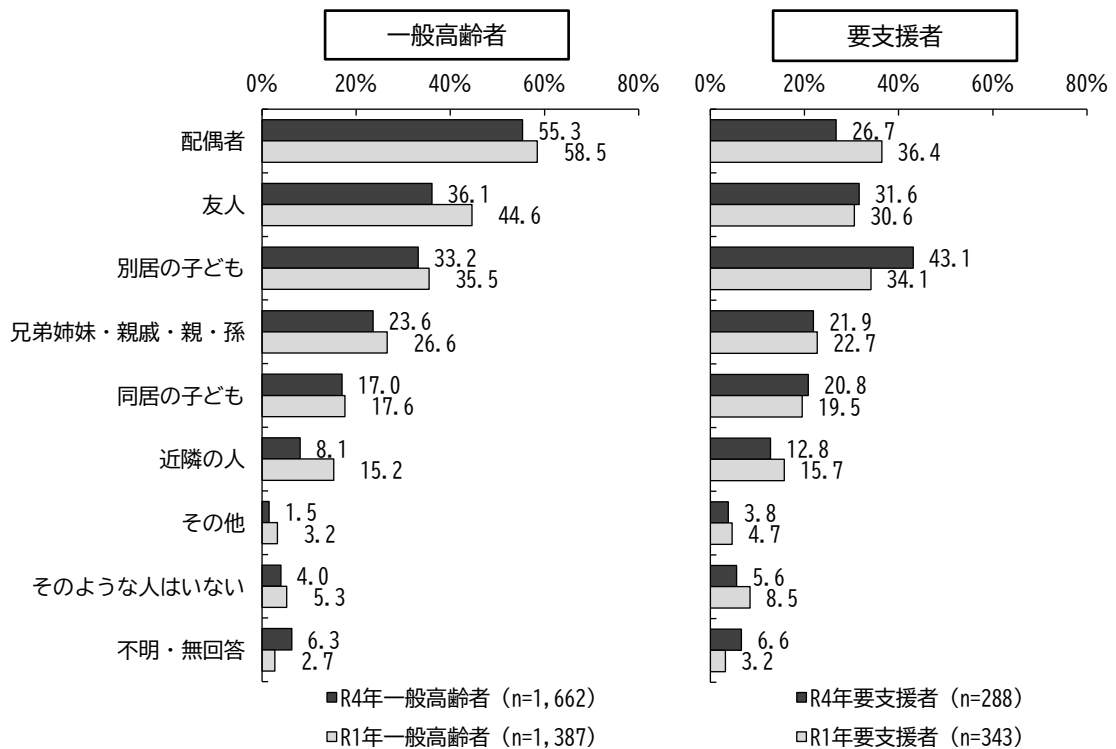
◆性別にみた請求書の支払い【一般高齢者】

単位：%

	できるし、している	できるが、していない	できない	不明・無回答
男性 (n=741)	63.3	30.2	5.3	1.2
女性 (n=894)	90.0	6.7	1.9	1.3

心配事や愚痴を聞いてくれる人、病気で寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人について、特に1人暮らしの高齢者で「そのような人はいない」が1割を超えており、特に支援を受けにくい状況にあることがうかがえます。

■あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人は誰ですか。【複数回答、介護予防・日常生活圏域二一ズ調査問 60】

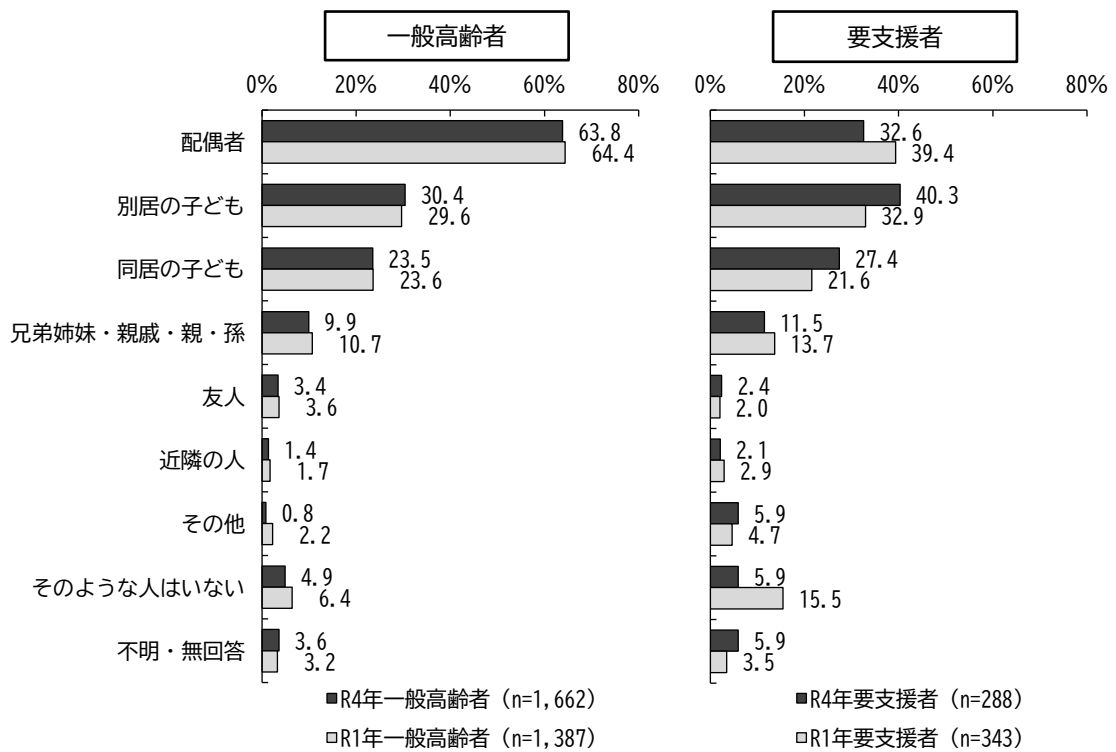


家族構成別にみた心配事や愚痴を聞いてくれる人【一般高齢者】

単位：%

	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣の人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
1人暮らし (n=269)	1.1	46.5	43.1	33.1	1.9	10.8	1.9	11.5	7.1
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=773)	76.2	33.9	38.3	20.4	2.2	8.2	1.2	2.3	6.2
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=55)	81.8	25.5	16.4	9.1	5.5	1.8	0.0	1.8	7.3
息子・娘との2世帯 (n=298)	49.7	35.6	23.2	25.5	51.3	6.4	0.7	2.3	5.0
その他 (n=195)	51.8	32.8	22.6	26.2	41.0	9.2	2.6	4.1	5.6

■あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は誰ですか。【複数回答、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 62】



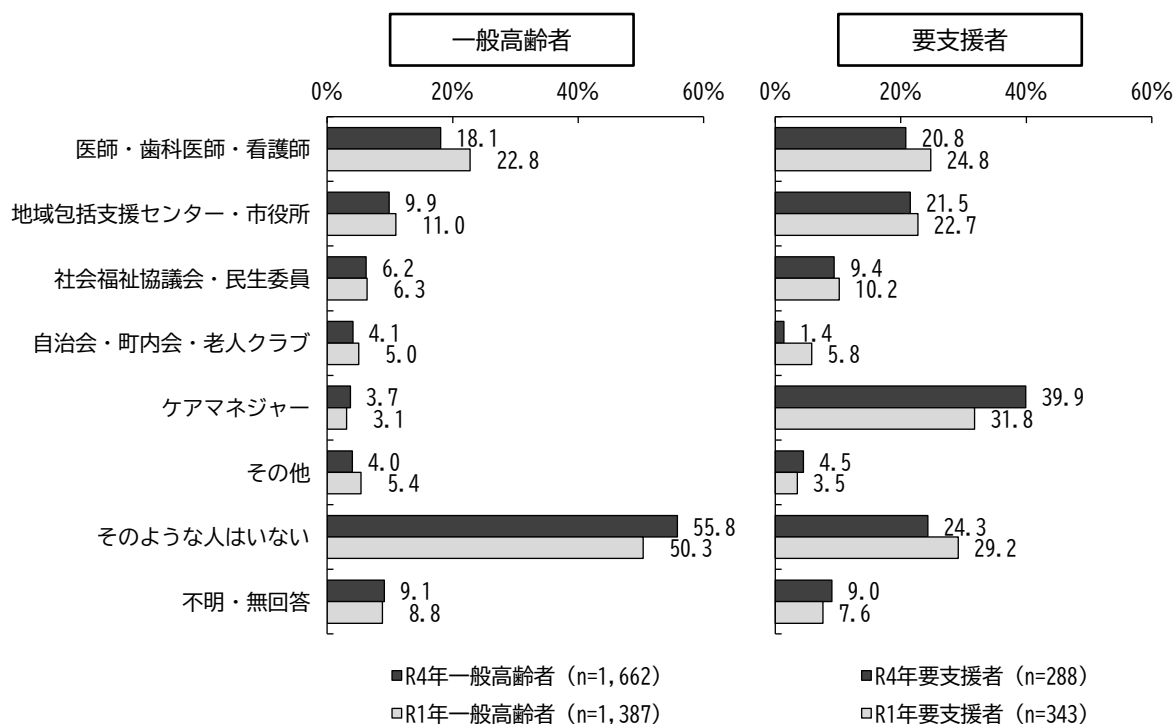
家族構成別にみた看病や世話をしてくれる人【一般高齢者】

単位：%

	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣の人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
1人暮らし (n=269)	1.9	53.2	1.9	23.0	12.6	3.3	2.6	17.5	4.8
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=773)	88.7	34.8	3.8	6.2	2.2	1.0	0.3	2.5	3.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=55)	96.4	14.5	10.9	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
息子・娘との2世帯 (n=298)	53.4	14.1	70.1	9.4	0.3	0.7	0.7	2.3	3.0
その他 (n=195)	60.0	16.4	55.9	9.7	1.0	1.0	1.0	2.6	4.6

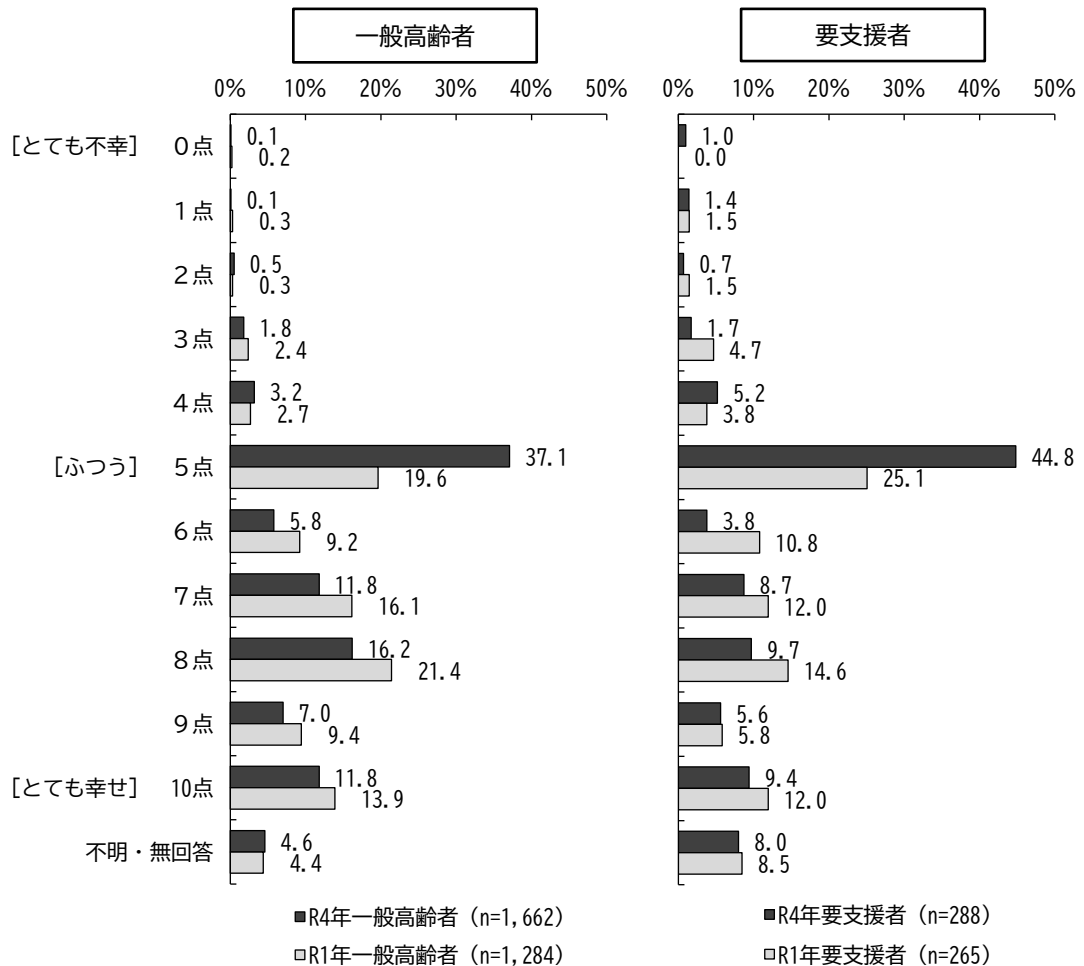
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する人について、「そのような人はいない」が一般高齢者で半数を超えており、前回調査よりやや増加しています。

■家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する人はいいますか。【介護予防・日常生活圏域二一ズ調査問 64】

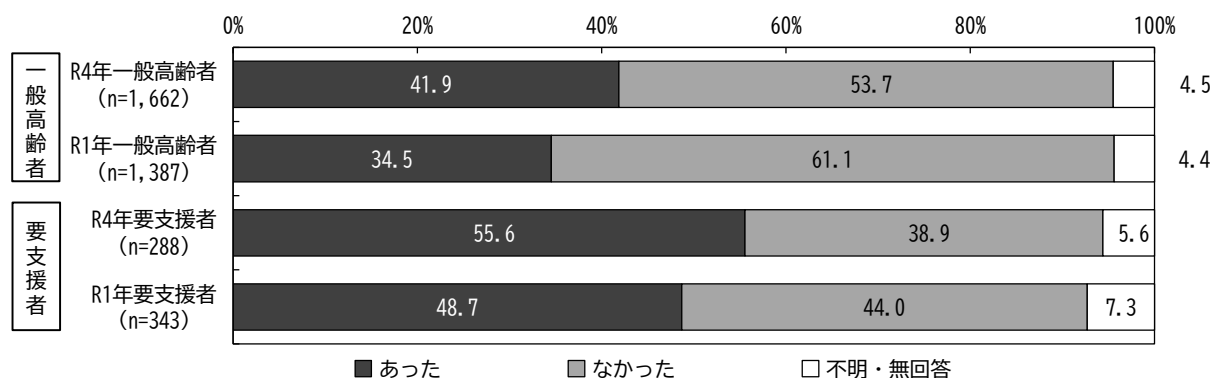


現在の幸福度（10点満点）について、6点以上の回答が減少し、5点が増加しています。主観的な幸福度については、全体的に低下していることがうかがえます。うつ傾向に関わる設問についても、該当する回答が前回より増加しています。

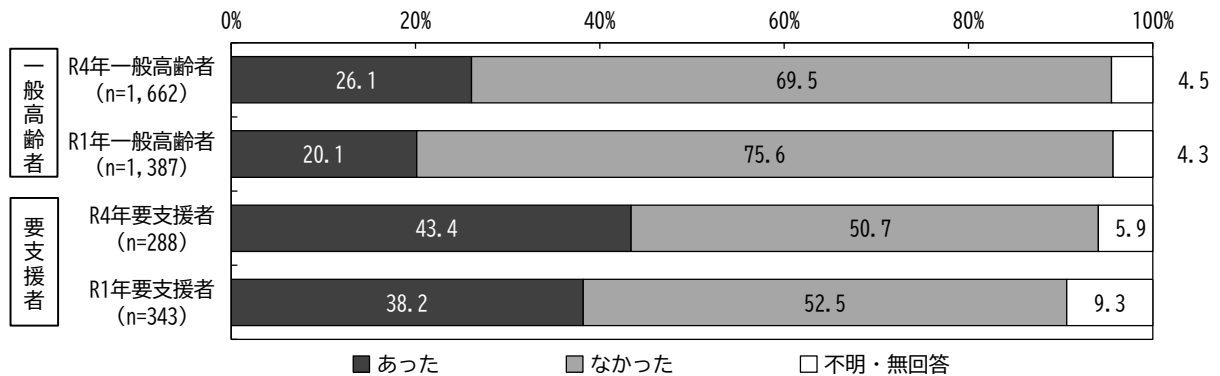
■あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として回答してください）【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 69】



■この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 70】

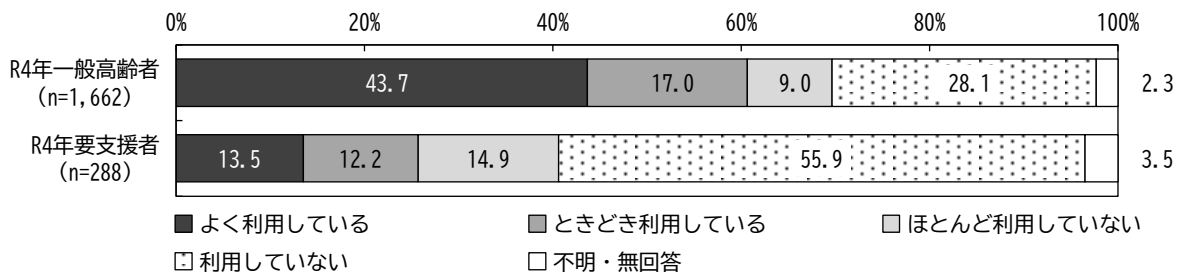


■この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 71】



情報通信機器の利用について、「よく利用している」は70～74歳で51.6%、75～79歳で43.9%ありますが、80歳代以上では少なくなっています。また、一般高齢者で利用している人の82.1%がメール・LINE等を利用した家族・知人との情報交換、66.2%がウェブサイト等の利用による調べものや情報検索」を行っています。

■パソコン、スマートフォンやタブレット端末等の情報通信機器を利用していますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 54】



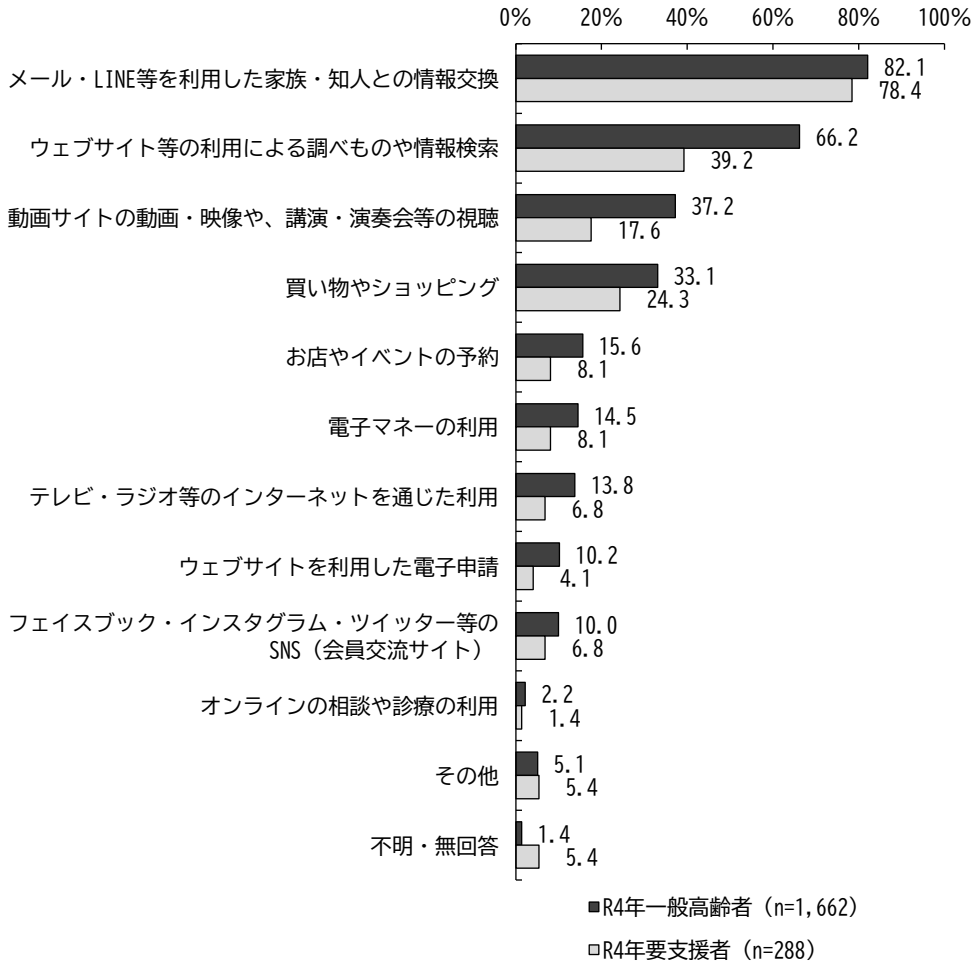
年齢別にみた情報通信機器の利用【一般高齢者】

単位：%

年齢	よく利用している	ときどき利用している	ほとんど利用していない	利用していない	不明・無回答
65～69歳 (n=298)	71.1	16.4	2.3	9.7	0.3
70～74歳 (n=434)	51.6	22.6	9.0	15.9	0.9
75～79歳 (n=399)	43.9	16.3	9.3	28.1	2.5
80～84歳 (n=306)	25.8	16.3	12.1	43.1	2.6
85～89歳 (n=147)	15.6	9.5	12.9	55.1	6.8
90歳以上 (n=53)	5.7	5.7	15.1	73.6	0.0

【問 54 で「よく利用している」「ときどき利用している」と回答した人のみ】

■問 55 パソコン、スマートフォンやタブレット端末等の情報通信機器を利用している目的は何ですか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問 55】



(2) 支援のポイント (案)

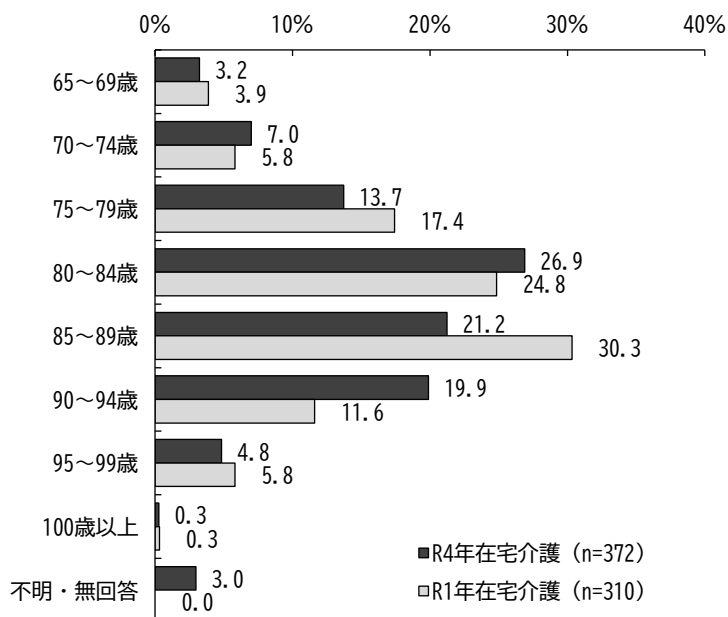
- ◆日常生活を維持するための活動については、女性より男性に課題の大きい人が多くなっています。
- ◆1人暮らし高齢者において、支援を受けられる関係にやや乏しい傾向が示されています。家族や友人・知人以外で相談できる人がいない一般高齢者が半数以上となっています。
- ◆高齢者の主観的幸福度がやや低下しており、感染症の拡大等の影響が考えられます。
- ◆情報通信機器については、70歳代まではかなりの割合で利用しており、今後情報通信機器の利用に慣れた高齢者が増加していくことが見込まれます。様々な情報発信やつながりづくりのためのツールとして、今後重要度が高まっていくと考えられます。

5. 在宅要介護認定者の状況について

(1) 主な調査結果

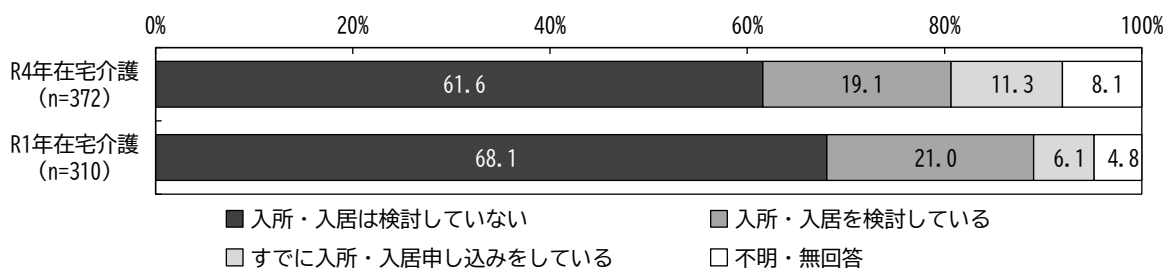
在宅で生活する要支援・要介護認定者について、調査結果においては前回調査より85～89歳が減少し、90歳～94歳が増加しています。

■年齢【在宅介護実態調査A表】



施設等への入所・入居については、「検討していない」が61.6%で前回よりやや減少しています。要介護1で69.7%、要介護3～5で約48.5%となっています。

■現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください【在宅介護実態調査A表問10】



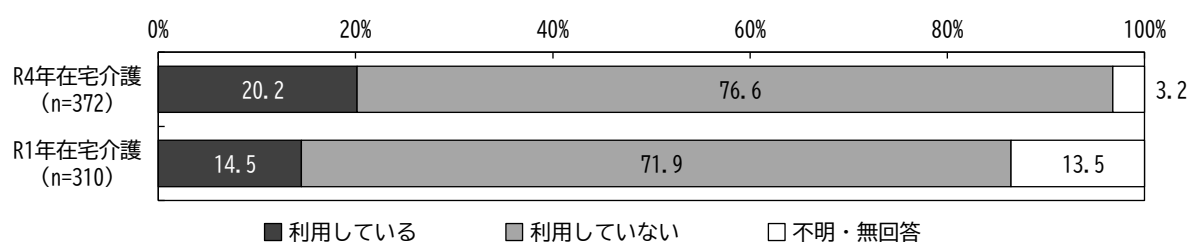
要介護度別にみた施設等への入所・入居の検討状況

単位：%

	入所・入居を検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	不明・無回答
要支援1・2 (n=51)	76.5	9.8	2.0	11.8
要介護1 (n=109)	69.7	17.4	6.4	6.4
要介護2 (n=98)	57.1	25.5	11.2	6.1
要介護3～5 (n=99)	48.5	18.2	22.2	11.1

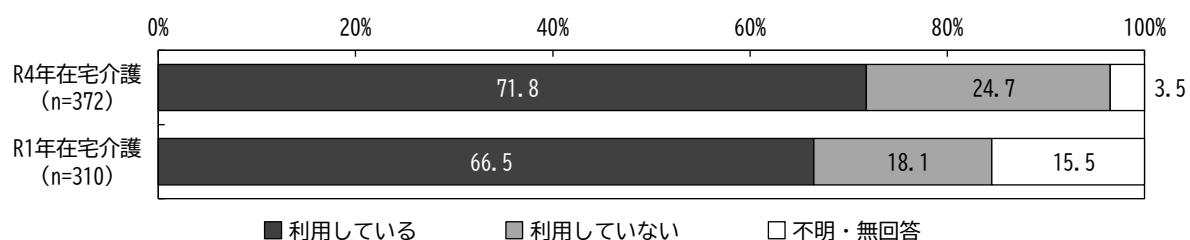
訪問診療を利用しているのは20.2%で、前回調査より増加しています。

■ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか【在宅介護実態調査A表問 12】



介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）を利用しているのは71.8%で、前回よりやや増加しています。

■現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか【在宅介護実態調査A表問 13】



利用している介護保険サービスについては、「通所介護」を47.8%、「訪問介護」を29.1%が利用しています。

要介護度別にみると、「通所介護」は要介護に関わらず5割台の利用となっています。「訪問介護」は要介護3～5で44.4%、「訪問看護」33.3%の利用で、いずれも要介護1、2より要介護3以上で利用率が高くなっていますが、利用していない要介護者の方が多くなっています。

■介護保険サービスの利用状況【在宅介護実態調査 認定データより】

単位：%

n=372	14回以下	15回以上	利用なし	データなし
訪問介護(ホームヘルプサービス)	14.0	15.1	68.0	3.0
訪問入浴介護	2.4	0.0	94.6	3.0
訪問看護	17.7	1.1	78.2	3.0
訪問リハビリテーション	6.7	0.0	90.3	3.0
居宅療養管理指導	4.8	0.0	92.2	3.0
通所介護(デイサービス)	33.6	14.2	49.2	3.0
通所リハビリテーション	8.6	0.5	87.9	3.0
短期入所生活介護(ショートステイ)	5.4	0.5	91.1	3.0
短期入所療養介護	0.3	0.0	96.8	3.0
小規模多機能型居宅介護	0.0	1.3	95.7	3.0
看護小規模多機能型居宅介護	0.0	0.5	96.5	3.0

◆要介護度別にみた利用状況

単位：%

	要介護1 (n=109)	要介護2 (n=98)	要介護3～5 (n=99)
訪問介護(ホームヘルプサービス)	25.7	28.6	44.4
訪問入浴介護	0.0	0.0	9.1
訪問看護	17.4	13.3	33.3
訪問リハビリテーション	2.8	10.2	10.1
居宅療養管理指導	4.6	2.0	10.1
通所介護(デイサービス)	51.4	57.1	54.5
通所リハビリテーション	9.2	11.2	11.1
短期入所生活介護(ショートステイ)	1.8	7.1	13.1
小規模多機能型居宅介護	0.9	2.0	2.0
看護小規模多機能型居宅介護	0.0	2.0	0.0

(2) 支援のポイント (案)

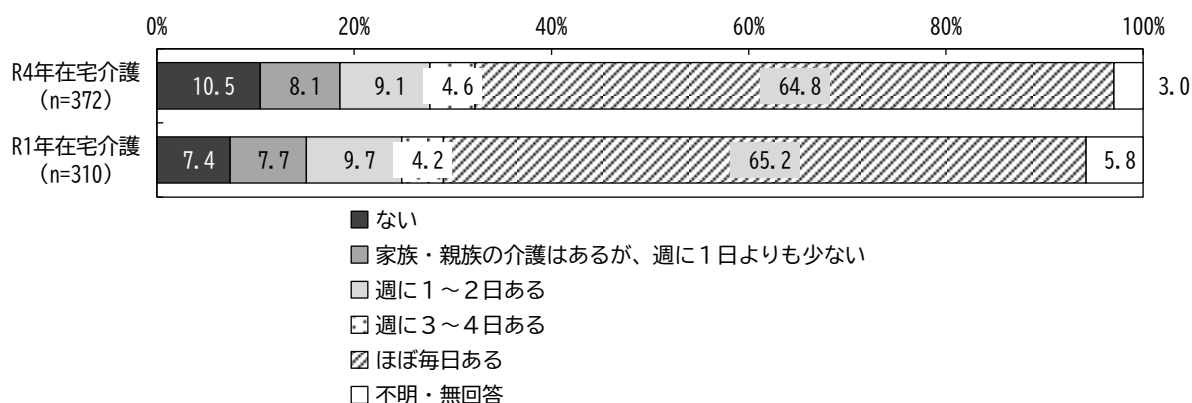
- ◆介護保険サービスや訪問診療の利用は増加している一方で、施設等への入所を検討している人が増加しています。
- ◆サービスの利用については、要介護度の高低がサービスの利用率に必ずしも関連していない状況がみられます。

6. 在宅介護の支援について

(1) 主な調査結果

家族・親族からの介護は「ほぼ毎日」が全体の3分の2を占めている一方、「ない」も約1割あります。要介護度別にみると、要介護3～5では「ない」が約2割となっており、サービス付き高齢者住宅等への入居で、家族等からの介護が無い状況にある人が含まれると考えられます。

■ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）【在宅介護実態調査A表問2】



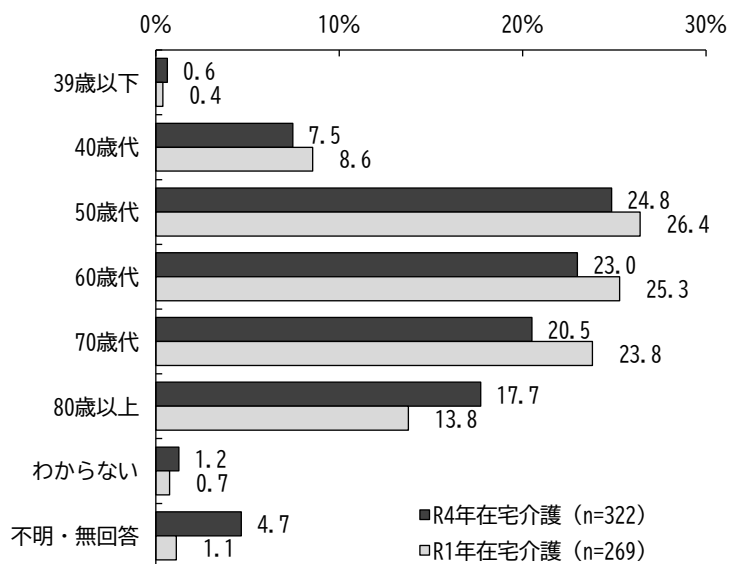
要介護度別にみた家族や親族からの介護

単位：％

	ない	家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない	週に1～2日ある	週に3～4日ある	ほぼ毎日ある	不明・無回答
要支援1・2 (n=51)	2.0	17.6	13.7	13.7	43.1	9.8
要介護1 (n=109)	9.2	6.4	16.5	1.8	63.3	2.8
要介護2 (n=98)	4.1	9.2	4.1	2.0	79.6	1.0
要介護3～5 (n=99)	22.2	5.1	3.0	5.1	63.6	1.0

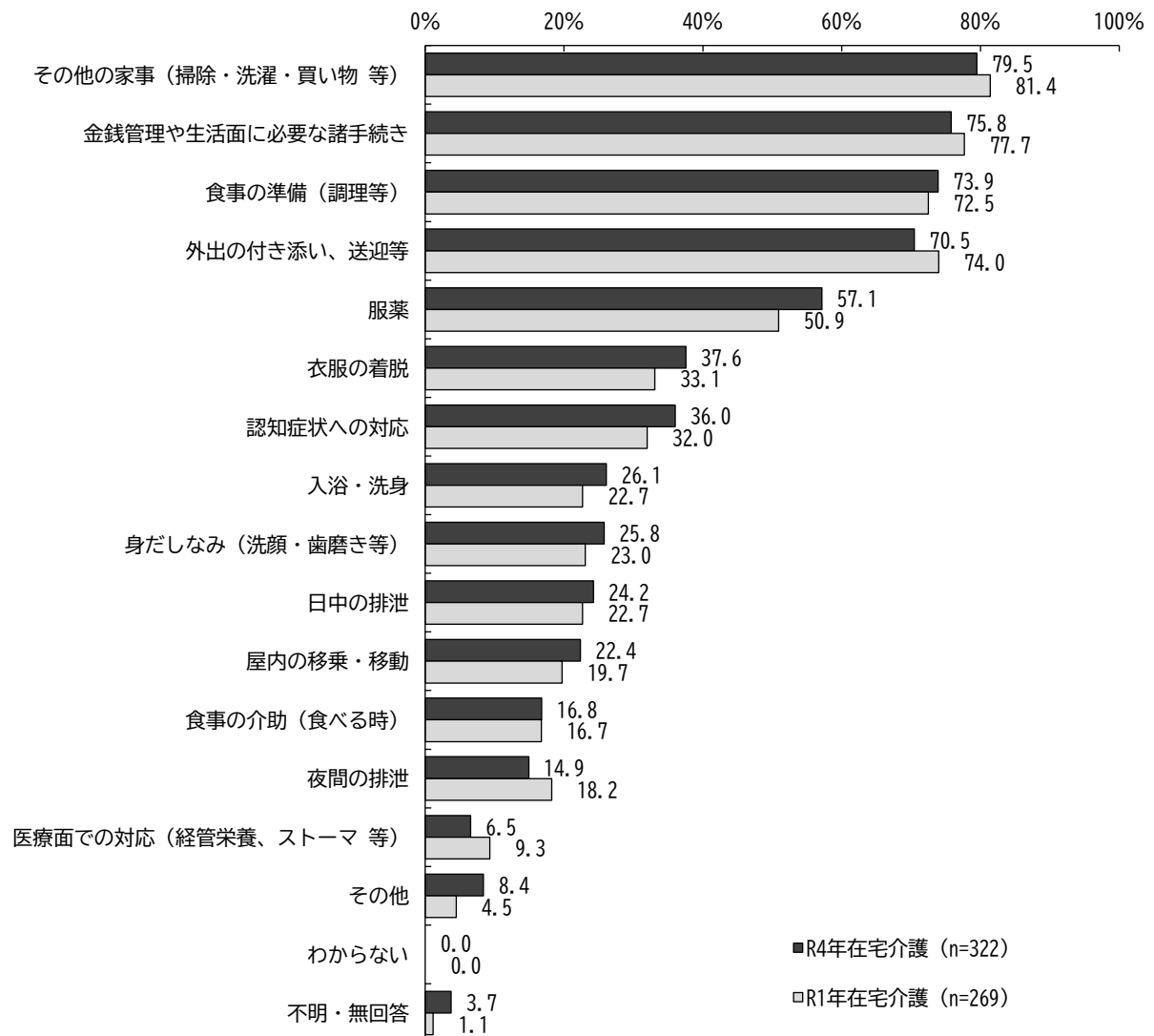
主な介護者の年齢は70歳以上が38.2%となっており、前回調査より「80歳以上」がやや増加しています。

■主な介護者の方の年齢について、ご回答ください【在宅介護実態調査A表問5】



主な介護者が行っている介護について、全体では「その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「食事の準備」「外出の付き添い、送迎等」がいずれも70%台で多くなっています。要介護度が上がると、排泄、食事の介助（食べる時）、衣服の着脱等の割合が増加しています。

■現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください【複数回答、在宅介護実態調査A表問6】



要介護度別にみた主な介護者が行っている介護等

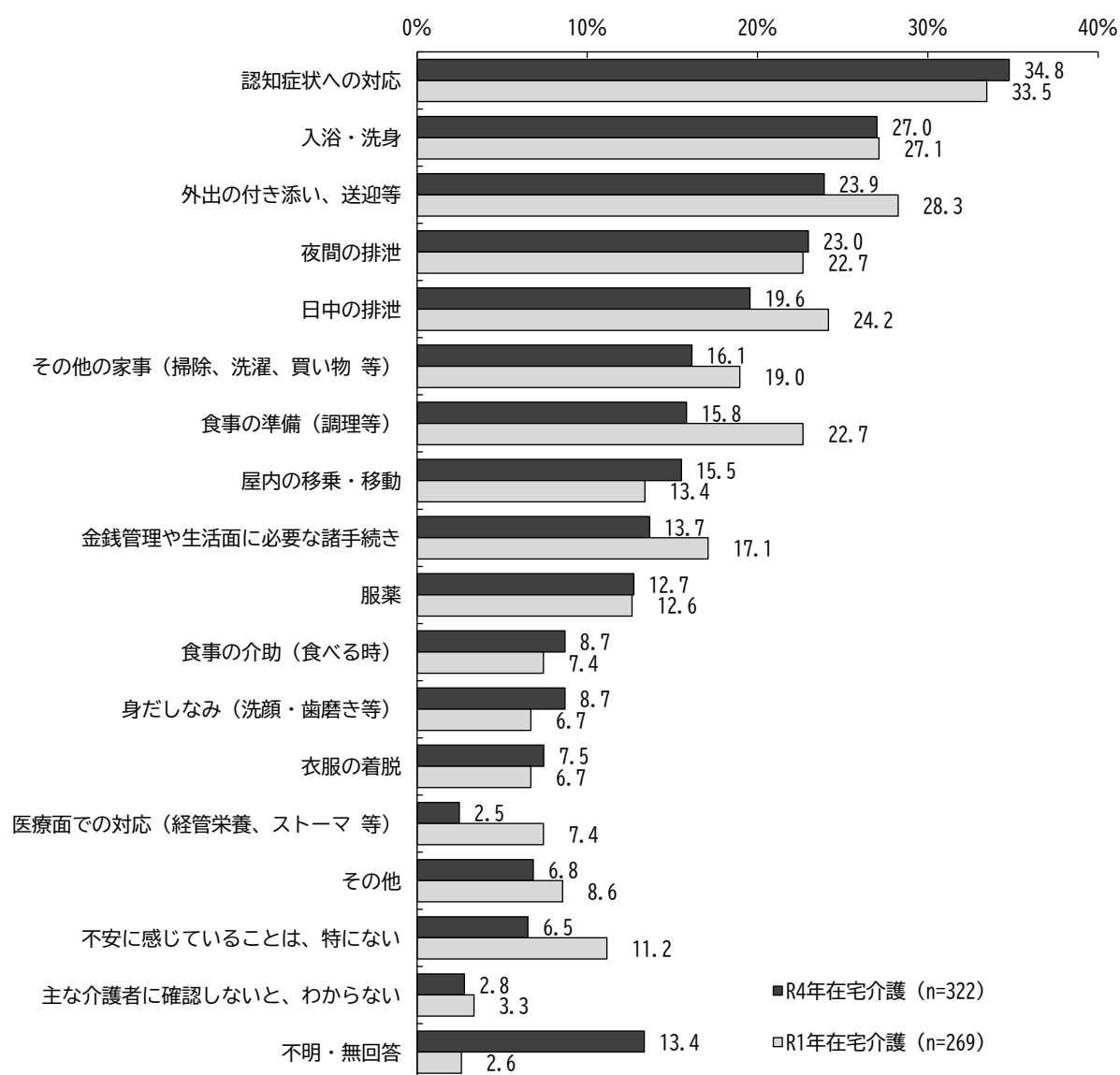
単位：%

	その他の家事 (掃除・洗濯・買い物等)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	食事の準備 (調理等)	外出の付き添い、送迎等	服薬	衣服の着脱	認知症状への対応	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・歯磨き等)
要支援1・2 (n=51)	52.9	58.8	43.1	51.0	23.5	3.9	5.9	5.9	0.0
要介護1 (n=109)	74.3	67.9	63.3	63.3	43.1	12.8	26.6	18.3	9.2
要介護2 (n=98)	80.6	72.4	78.6	74.5	65.3	42.9	41.8	33.7	25.5
要介護3～5 (n=99)	60.6	59.6	61.6	49.5	57.6	58.6	38.4	25.3	47.5

	日中の排泄	屋内の移乗・移動	食事の介助 (食べる時)	夜間の排泄	医療面での対応	その他	わからない	不明・無回答
要支援1・2 (n=51)	0.0	3.9	5.9	0.0	3.9	3.9	0.0	15.7
要介護1 (n=109)	0.0	6.4	5.5	4.6	3.7	10.1	0.0	12.8
要介護2 (n=98)	23.5	16.3	11.2	8.2	7.1	5.1	0.0	8.2
要介護3～5 (n=99)	53.5	44.4	31.3	32.3	8.1	8.1	0.0	29.3

主な介護者が不安を感じる介護については、「認知症状への対応」が34.8%で最も多く、次いで「入浴・洗身」(27.0%)、「外出の付き添い、送迎等」(23.9%)、「夜間の排泄」(23.0%)の順で多くなっています。

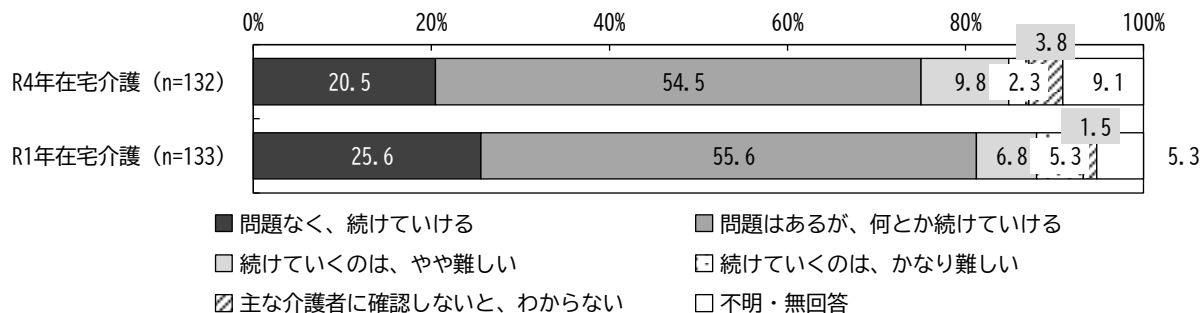
■現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)【3つまで複数回答、在宅介護実態調査B表問7】



主な介護者が就労している場合（家族介護者の41.0%）の働きながら介護を続けていく見込みについては、75.0%が続けていける（「問題なく続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）と回答している一方、12.1%が続けていくのは難しい（「やや難しい」と「かなり難しい」の合計）と回答しています。

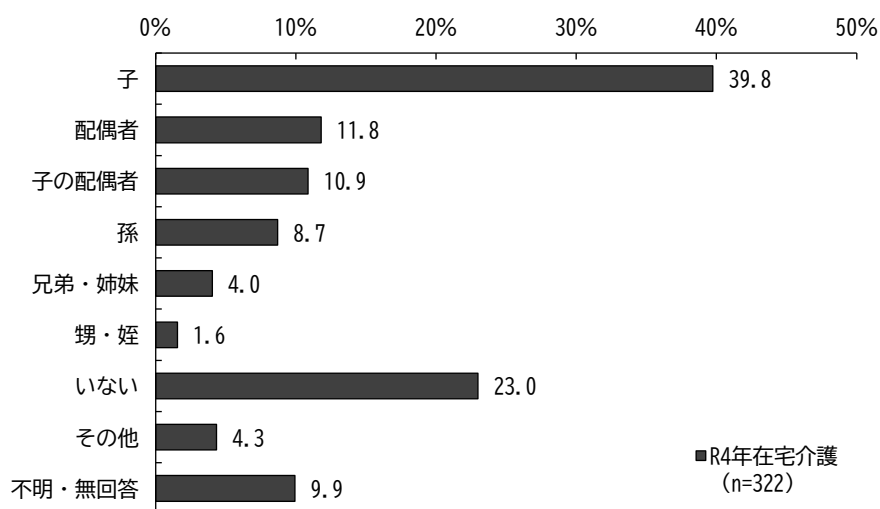
「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した人のみ

■主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか【在宅介護実態調査B表問4】



主な介護者以外の介護者が「いない」という回答が23.0%となっています。

■主な介護者以外の介護者について、ご回答ください【在宅介護実態調査B表問5】



(2) 支援のポイント (案)

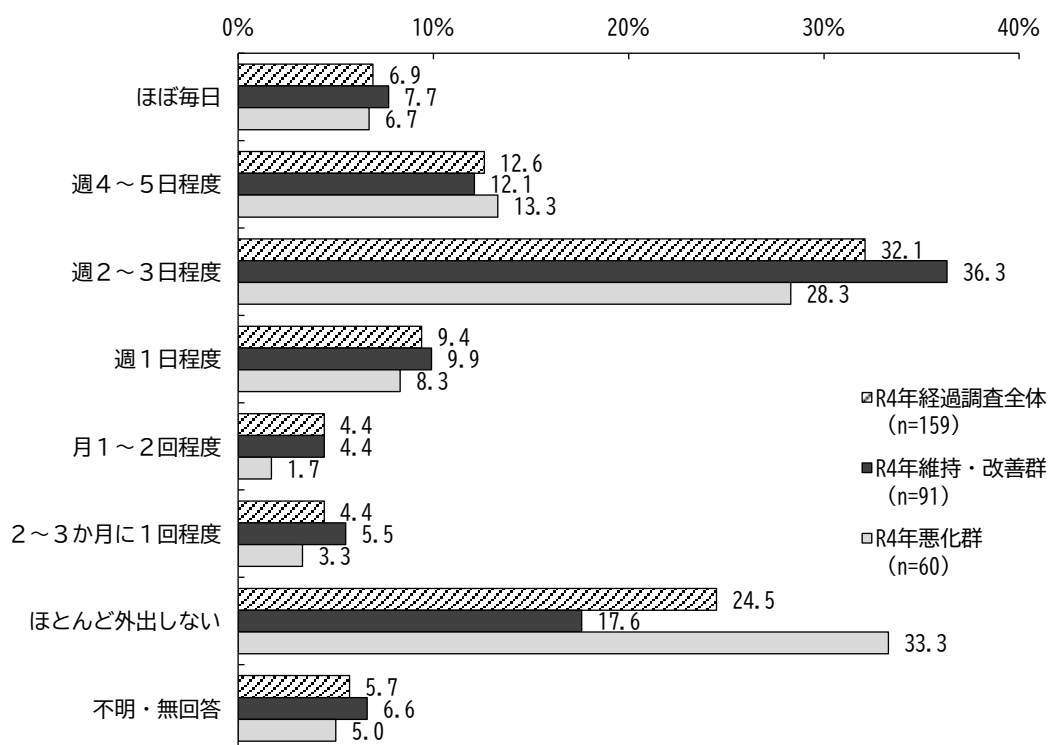
- ◆主な介護者の高齢化が引き続き課題となっています。また、主な介護者以外の介護者がおらず、主な介護者の孤立が懸念される状況も一部にうかがえます。
- ◆主な介護者が不安を感じる介護について、要介護度に関わらず行う人が多い介護の中では「外出の付き添い、送迎等」が多く、それ以外は要介護度が高くなってから行う介護（「入浴・洗身」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」等）、が上位となっています。

7. 在宅における要介護度の維持・改善に向けて

(1) 主な調査結果

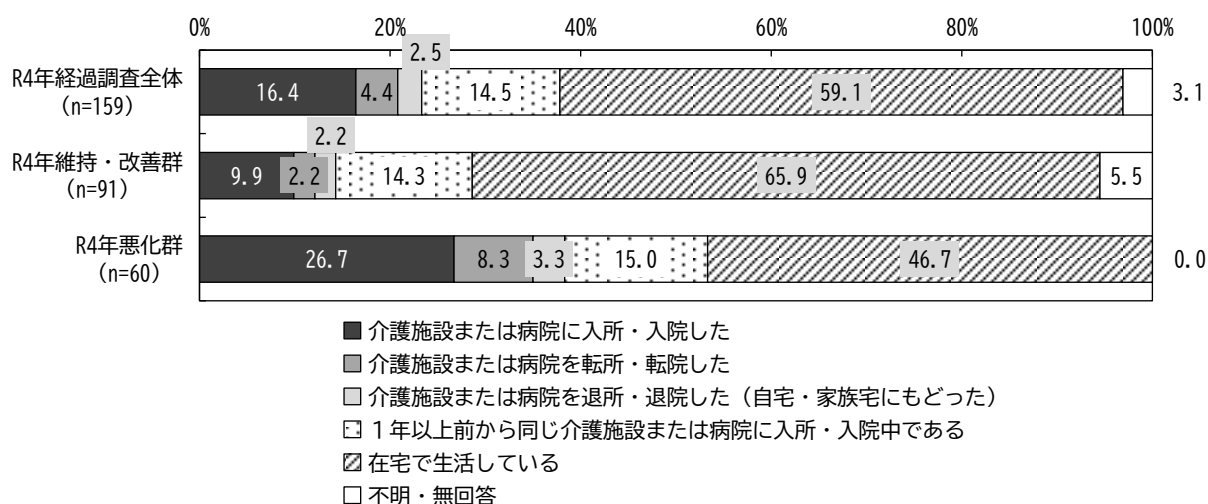
要介護度が3年前の調査より維持・改善されたグループ（維持・改善群）では、悪化したグループ（悪化群）より「ほとんど外出しない」が少なく、外出頻度が高い傾向となっています。

■ご本人の外出頻度はどのくらいですか。【第8期経過介護実態調査問2】



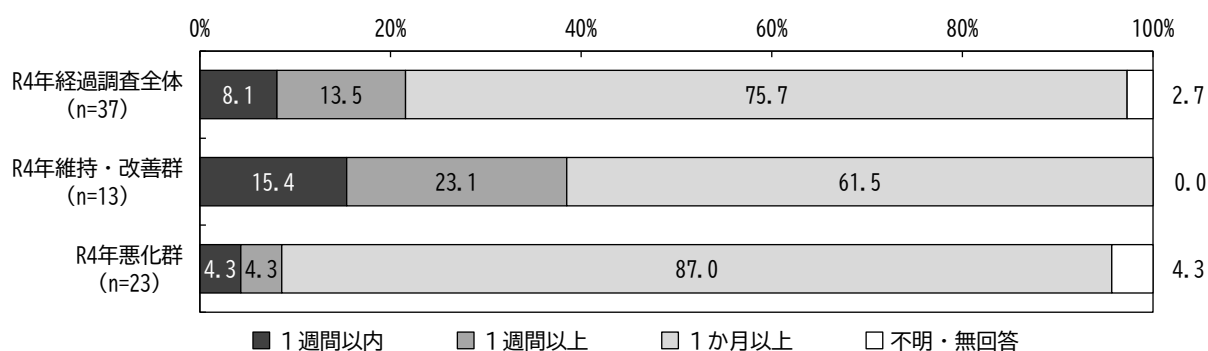
維持・改善群では悪化群に比べて「介護施設又は病院に入所・入院した」「介護施設又は病院を転所・転院した」が少なく、「在宅で生活している」が多くなっています。また、入所・入院した場合も維持・改善群では悪化群と比べて「1週間以内」または「1週間以上」が多く、入所・入院をしても比較的短期間となっていることがうかがえます。

■ご本人は、過去1年間に介護施設等の入退所または病院の入退院等をしていますか。【第8期経過介護実態調査問5】



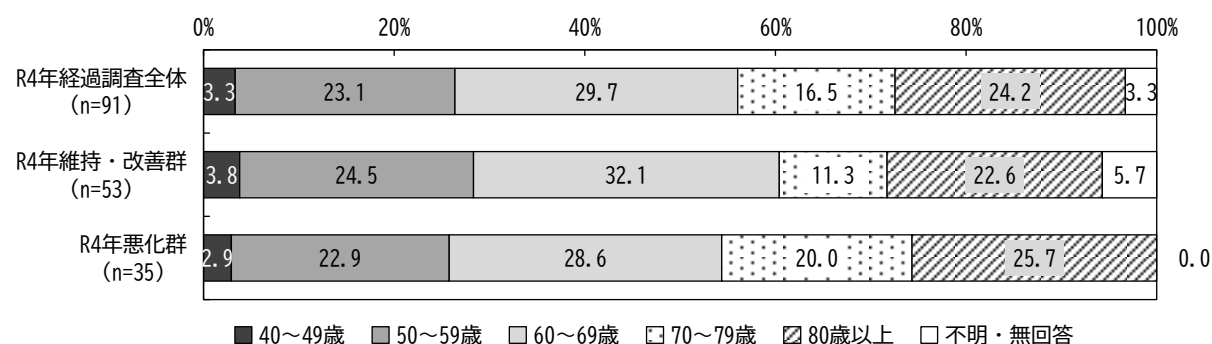
【問5において「介護施設または病院に入所・入院した」「介護施設または病院を転所・転院した」「介護施設または病院を退所・退院した（自宅・家族宅にもどった）」と回答した人のみ】

■どれだけの期間介護施設等または病院に入所・入院していますか（いましたか）。【第8期経過介護実態調査問6】

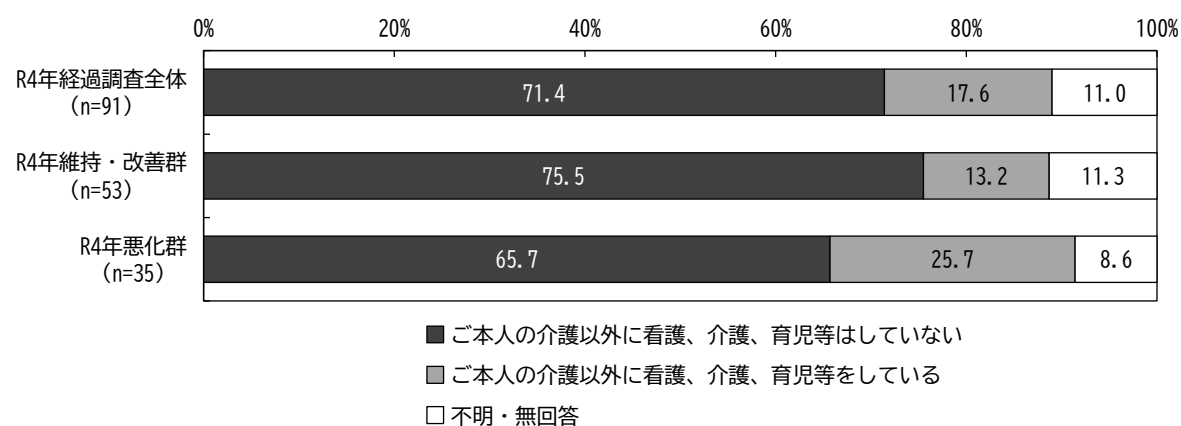


維持・改善群では悪化群に比べて、主な介護者が70歳以上の割合やや少なくなっています。また、悪化群では維持・改善群の2倍近くが「ご本人の介護以外に看護、介護、育児等をしている」と回答しています。

■主な介護者の方の年齢はどれに該当しますか。【第8期経過介護実態調査問 17】

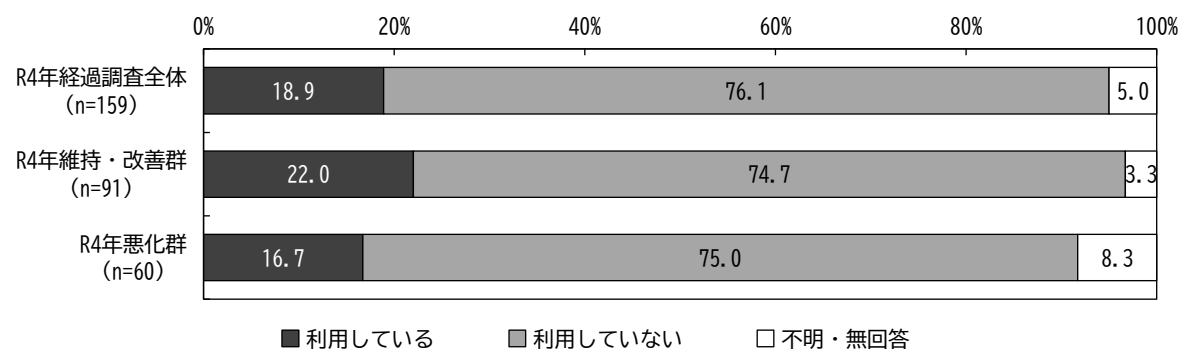


■現在、主な介護者の方が、ご本人の介護以外に主として介護等を行っている人はいますか。【第8期経過介護実態調査問 19】



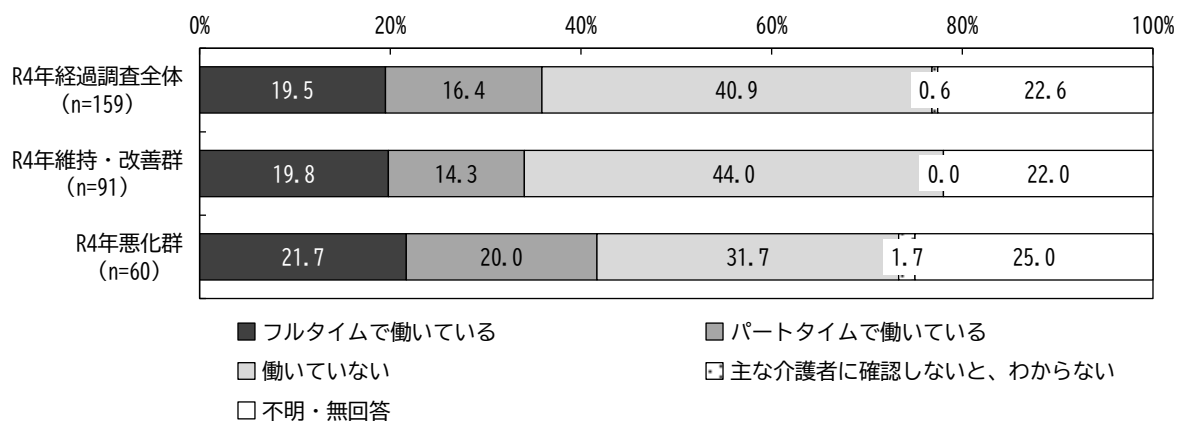
訪問診療の利用は全体では18.9%ですが、維持・改善群では悪化群と比べて「利用している」がやや多くなっています。

■ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。【第8期経過介護実態調査問 25】



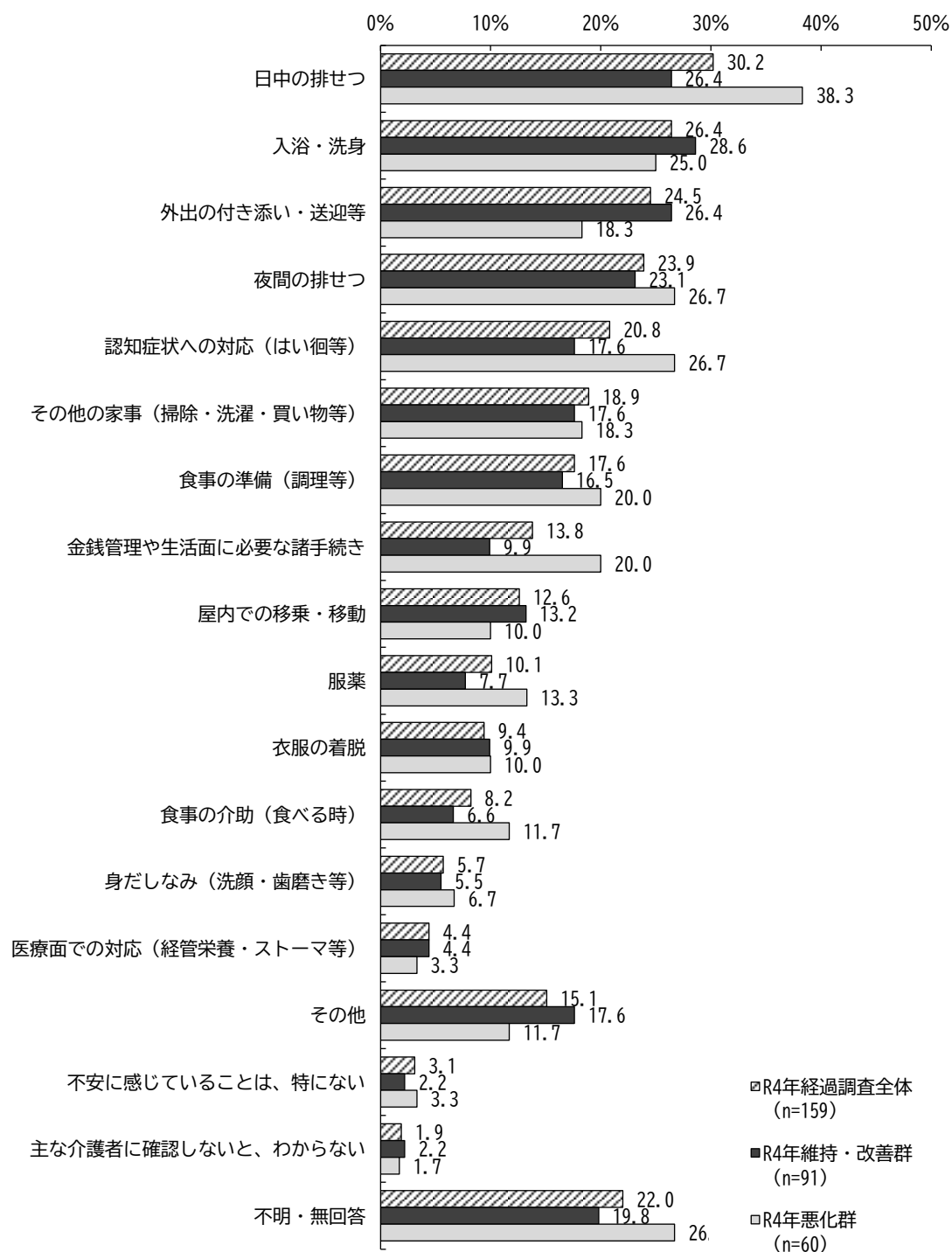
主な介護者の勤務形態について、維持・改善群では、悪化群と比べて「働いていない」が多く、就労している人がやや少なくなっています。

■ご本人の外出頻度はどのくらいですか。【第8期経過介護実態調査問 26】



介護生活を送る際の不安や困りごとについて、維持・改善群では悪化群と比べて「日中の排せつ」「認知症状への対応（はい徊等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が少なくなっています。

■（在宅生活を送る要介護者を介護している）現在の生活を今後も続けていくためには、主な介護者の方が不安を感じる介護等はどれですか。【3つまで複数回答、第8期経過介護実態調査問30】



(2) 支援のポイント (案)

- ◆維持・改善群では悪化群と比べて外出の頻度が高く、施設又は病院への入所・入院が少ないか、入所・入院しても短期間となっています。状態の悪化と外出や入所・入院のどちらが原因かは調査のみでは判断できませんが、積極的な外出や入所・入院の期間が短いことと要介護状態の維持・改善とに関連がある可能性があります。
- ◆維持・改善群では老々介護の割合が低く、ダブルケアの状況にあることが少なくなっており、訪問診療の利用も多くなっています。比較的丁寧に支援を受けられる状況にあることが、要介護状態の維持・改善につながっていることが考えられます。

8. 介護人材の確保について

(1) 主な調査結果

訪問系サービス事業所の採用者数は、正規職員は40歳～59歳、非正規職員は30歳～69歳が多くなっています。正規職員では70歳以上の採用も全体の14.7%を占めています。離職者数は、正規職員では50歳代を中心に40～69歳が多く、非正規職員も40～69歳が多くなっています。

■過去1年間（令和3年12月1日～令和4年12月1日）の介護職員の採用者数と離職者数をご記入ください。採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。【介護人材実態調査】

訪問系：採用者数

採用者数		回答事業所数（事業所）	採用者合計（人）	採用者の年齢別割合（%）							
				20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	年齢不明
正規職員	訪問系事業所全体	18	34	0.0	0.0	8.8	29.4	35.3	11.8	14.7	0.0
	訪問系サービス	16	23	0.0	0.0	8.7	34.8	30.4	17.4	8.7	0.0
非正規職員	訪問系事業所全体	18	58	0.0	3.4	19.0	22.4	24.1	20.7	10.3	0.0
	訪問系サービス	16	51	0.0	3.9	19.6	23.5	25.5	17.6	9.8	0.0

訪問系：離職者数

離職者数		回答事業所数（事業所）	離職者合計（人）	離職者の年齢別割合（%）							
				20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	年齢不明
正規職員	訪問系事業所全体	18	23	0.0	0.0	0.0	21.7	43.5	26.1	8.7	0.0
	訪問系サービス	16	23	0.0	0.0	0.0	21.7	43.5	26.1	8.7	0.0
非正規職員	訪問系事業所全体	18	36	2.8	2.8	5.6	19.4	27.8	30.6	11.1	0.0
	訪問系サービス	16	33	3.0	0.0	6.1	21.2	30.3	30.3	9.1	0.0

施設・通所系サービス事業所の採用者数は、正規職員、非正規職員ともに40歳～59歳が多くなっています。離職者数は、正規職員では40～59歳が多く、通所系サービスでは20歳代の離職も多くなっています。非正規職員は30～79歳の間が多くなっています。

施設・通所系：採用者数

採用者数		回答事業所数(事業所)	採用者合計(人)	採用者の年齢別割合(%)							
				20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	年齢不明
正規職員	施設・通所系事業所全体	66	124	2.4	16.1	13.7	26.6	25.0	14.5	1.6	0.0
	施設・居住系サービス	30	75	4.0	17.3	13.3	25.3	21.3	16.0	2.7	0.0
	通所系サービス	32	39	0.0	15.4	15.4	30.8	25.6	12.8	0.0	0.0
非正規職員	施設・通所系事業所全体	66	189	0.5	8.5	20.1	23.8	24.3	10.6	12.2	0.0
	施設・居住系サービス	30	122	0.0	9.0	18.9	21.3	22.1	13.9	14.8	0.0
	通所系サービス	32	62	1.6	8.1	24.2	25.8	29.0	4.8	6.5	0.0

施設・通所系：離職者数

離職者数		回答事業所数(事業所)	離職者合計(人)	離職者の年齢別割合(%)							
				20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	年齢不明
正規職員	施設・通所系事業所全体	66	68	1.5	13.2	13.2	27.9	30.9	8.8	4.4	0.0
	施設・居住系サービス	30	38	2.6	2.6	15.8	28.9	31.6	10.5	7.9	0.0
	通所系サービス	32	27	0.0	29.6	11.1	22.2	29.6	7.4	0.0	0.0
非正規職員	施設・通所系事業所全体	66	94	1.1	8.5	18.1	24.5	18.1	13.8	16.0	0.0
	施設・居住系サービス	30	68	0.0	5.9	20.6	20.6	19.1	17.6	16.2	0.0
	通所系サービス	32	22	4.5	18.2	13.6	27.3	18.2	4.5	13.6	0.0

(2) 支援のポイント(案)

- ◆介護サービス事業所の人材確保の状況として、正規職員の採用が40歳代、50歳代が多く、若い世代の就職が少ない状況がうかがえます。
- ◆離職者については、40歳代、50歳代で多くなっており、介護の仕事でキャリアを継続していくことが容易ではない状況が示されています。